

学習上・行動上有困難のあるLD児の個別教育計画

—ことばの教室と通常学級、家庭、地域の連動を求める—

水木加良子*・川間健之介**

Individualized Educational Program for a Child with Learning Disabilities

Kayoko MIZUKI and Ken-nosuke KAWAMA

(Received December, 1997)

キーワード：個別教育計画、学習障害、課題関連図、ことばの教室

I. はじめに

近年、学習障害児及びこれに類する学習上の困難がある児童・生徒に対する教育的対応についての関心が高まりつつある。国立特殊教育研究所では、平成3年から4年間に渡り「教科学習に特異な困難を示す児童・生徒の類型化と指導法の研究」を実施した。この調査研究から現在、通常の学級に在籍する児童・生徒が受けることのできる特別な援助は、主に学級担任が授業以外の時間を使って行う個別指導と通級による指導であった。また学校の実情に合わせた様々な工夫がされている報告もあった。

ここでは学習上・行動上の困難をもつ学習障害児であるA児の事例を取り上げ、個別教育計画作成を通してその指導・援助のあり方を検討していく。A児は週1単位時間をことばの教室で学習し、それ以外の時間を通常学級で過ごしている。そこで通級という限られた時間の中で、どのような有効な指導を実施していくか、そして通常学級とことばの教室との間でその指導内容・方法のつながりをどうとっていくか、家庭・地域とのつながりをどうとっていくかを検討していくことが必要である。未だ学習障害児に対する理解、援助が十分ではない現状下であるので、今回はことばの教室担当者が全体をコーディネートする立場に立つ。そしてA児の学習上のつまづきと行動面の援助に対する通常学級、家庭、地域、ことばの教室が連動した効果的な指導システムと指導プログラムのあり方を個別教育計画を通して検討していく。

II. 個別教育計画作成の留意点

- ・子どもの希望を計画に生かしていく。

子どもの困難とする部分にだけ焦点をあてるのではなく、興味・関心を伸ばし、得意なことや好きなことを見つけ、子どもの可能性を伸ばしていくという視点から考える。

- ・指導の継続性を保つ。

指導の継続を保つためには、通常学級、家庭、ことばの教室と連動した個別教育計画の

*下松市立下松小学校 **山口大学教育学部

作成と活用を進めるとともに、担任や担当者が代わった時は、前任者が立案した個別教育計画を活用していくことが有効ではないかと考える。

- ・通常学級、家庭、ことばの教室が連動した組織的な教育計画を作成する。
- ・保護者・通常学級担任・本児を含む多面的な情報やニーズの収集と整理を行う。

情報収集の方法としては、従来からの方法に改善を加えた3つの方法を考える。1つ目は知能検査、発達検査から発達レベルを評価する。2つ目は学力検査や観察による達成度の評価に「KJ法による課題関連図」の作成を加える。3つ目は保護者や通常学級担任のニーズの把握、本児の希望等環境全体からのアセスメント（診断）を実施する。

- ・通常学級、家庭、地域、ことばの教室の有効な協力体制を考える。
- ・個別教育計画を活用した日々の評価と定期的な評価、計画の修正を実施する。

III. A児の個別教育計画の作成

1 A児の個別教育計画の作成手順（図1）

2 A児の個別教育計画の作成の実際

① 実態把握

ア 生育歴からの情報収集

イ 心理検査と学力検査、学習状況

ウ 行動観察

エ 本児のニーズの把握

本児のニーズは保護者、通常学級担任、ことばの教室担当者が代弁する。本児のニーズは計画を開いていくなかで柔軟に引き出していく。

オ 保護者のニーズの把握

「KJ法による課題関連図」（図2）で本児の課題がおおまかに4項目にリストアップされる。そこでこの項目を基準に4領域ごとに、保護者にニーズを記入してもらう。優先順位をつけられるものはつけてもらい、その者の願いを踏まえ、子どもにつけたい力を記入する。

カ 通常学級担任・ことばの教室担当者のニーズの把握（表1 個別教育計画）

子どもの実態把握と「KJ法による課題関連図」、保護者の願いを踏まえ、子どもにつけさせたい力を記入する。

キ 実態把握から考察されるA児の認知の偏り

書字・作文：視覚的な構成力の弱さ、視覚－運動統合の遅れ、会話力の遅れ

会話：社会的認知（場の雰囲気や流れがつかみにくい。自分が相手からどう思われているのか察することが苦手）、音量調節、統語

絵画、工作：視覚的な構成力の弱さ、視覚－運動統合の遅れ、失敗経験の積み重ねによると思われる。

運動・行動面の困難：運動能力（微細・粗大・運動統合）社会的認知、注意集中

② 個別指導目標の仮設定（②～④は「個別教育計画」）

ア 長期目標の仮設定

長期目標は1年間を目安にことばの教室担当者が仮設定する。まず上記のそれぞれのニーズを一覧にし、そのニーズ表と本児の実態を対比して長期目標を絞り込む。

イ 短期目標の仮決定

短期目標は、学期を目安にことばの教室担当者が仮設定する。短期目標は長期目標を達成するための具体的、かつ比較的容易な目標にする。上記のニーズ一覧表の中から、短期目標に移行できるものは移行し、それ以外の短期目標については、本児の実態から達成できる具体的な内容を考える。「KJ法による課題関連図」作成を通して百数十枚のカードによる本児の多面的で詳細な実態の理解ができているので参考にする。通常学級担任や保護者から本児の1つ1つの活動レベルを確認しているのでそれを参考にする。

- ③ 短期目標を指導の場、指導教科、指導内容・指導時間に仮に振り分ける。
- ④ 指導目標、指導の場、指導教科、指導内容・指導時間の決定のための協議

ことばの教室担当者が単独で仮決定した長期目標、短期目標、指導の場への振り分け、指導教科、指導内容・指導時間を通常学級担任、保護者に個々に提示し協議し、決定していく。

- ⑤ 指導の場ごとの個別指導計画作成
 - ア 「通常学級での個別指導計画表」(表2)
 - イ 「家庭・地域での課題と配慮事項一覧表」(表3)
 - ウ 「ことばの教室の個別指導計画表」の作成(表4)

⑥ ミーティングの実施

個別教育計画がほぼ完成したら通常学級担任、保護者、ことばの教室担当者が一堂に会して検討、調節をする。これまでの段階では個々に連携し、作成してきた計画を全体の場に提示し、3者で実現の可能性を検討、調整、修正していく。

3 個別教育計画の評価の視点、方法

① 通常学級、家庭、地域、ことばの教室それぞれの場での評価方法、評価の視点

評価の方法としては、1回または毎日の指導を記録する日々の評価と単元や期末、年度末の定期的な評価がある。定期的な評価では、それぞれの場で学期ごとに記述式で成果や変化を記述していく。ただしことばの教室では、前述の方法以外に指導プログラムごとに評価基準を設け、5段階で達成度を評価していく評価基準表を併用する。これは指導内容を構造化する点、記述式による評価で生じやすい曖昧さを回避する点で有効であると考えた。逆に記述式の評価は、その時々の微妙な変化が表現しやすい点、所見が記述できる点が優れていると考える。

② 評価の報告・修正

学期ごとに各々の場で評価された時点で3者でミーティングを実施し、評価の報告、検討、修正を行う。評価は指導による本児の成果や変化と個別教育計画に対する評価の2面がある。

IV.まとめと今後の課題

この個別教育計画は現在活用中であるので、現段階での課題について考察していく。まず個別教育計画作成以前のことを筆者の経験から振り返ってみる。それは、子どもに対する保護者の実態把握と担任、担当者の実態把握にずれがあったり、また保護者のニーズがなかなかでてこなかったり、通常学級での本児の行動面や対人面での実態把握が難しい面があつたりした。また、教育の場でのインフォームド・コンセント（保護者への丁寧な説明と同意）が必要ではないかと思ってきたが、今まででは具体的にどのように進めたらよいのかが分からぬ部分が多かった。しかしこの個別教育計画作成を通して、本児の

具体的な事実をもとに情報交換をするなかで本児の全体を通した現状や課題相互の関連が明らかになった。また個々のニーズを互いに理解し合うことができた。本児と関わる者が、必要な情報を共有化し、互いの本児に寄せる思いや願いを理解していくことができた。そして保護者の希望や優先性を反映し、具体的な目標、指導内容、方法、予想される成果を保護者に説明し、同意を得ることができた。

従来、ことばの教室では、通常学級担任や保護者、或いは関係機関との緊密なコミュニケーションをどう充実させるかが求められてきた。今回、「KJ法による課題関連図」の作成やミーティング、計画作成全体を通して、3者の話し合いの持ち方や情報交換のあり方今までとは別の方面から検討することができた。

言い換えれば、子どもの実態を共有し、変容を追う視点、場面を焦点化したことにより、何をどう協力すればよいのかが明確になったということである。以下に現段階での課題を考察した。

1 個別教育計画作成の方法と様式を検討する。

- ① 効率的な作成手順と活用しやすい形式
- ② 目標設定のあり方・ミーティングの時期
- ③ 評価のあり方

2 学校の実情に合わせた支援体制作りを進める。

全職員が共通理解した上で子どもの個に応じた校内支援体制を整えていくことが急務である。

3 教科学習に特異な困難を示す子どもに有効な指導プログラム作成と活用を探る。

- ① 子どもの特異な学習のつまずきを的確に把握するための工夫と努力
- ② 子どもの認知（情報処理）特性を考慮した教材の選択や教示の工夫

参考文献

- ①上野一彦・大石敬子他「第4回・LD指導者のためのワークショップ資料集」1996
- ②国立特殊教育研究所「心身障害児の個別指導方法に関する実証的研究」1996
- ③国立特殊教育研究所「教科学習に特異な困難を示す児童・生徒の類型化と指導法の研究」1996
- ④東京都教育庁指導課「平成7年度心身障害教育開発指導資料集」1996
- ⑤安田生命社会事業団「個別教育計画の理念と実践」1995
- ⑥「実践障害児教育1月号個別教育計画のすすめ」学研 1995
- ⑦「実践障害児教育1月号個別教育計画の進め方」学研 1997
- ⑧三浦祐一「児童・生徒の問題状況の総合的把握のための一方法」特殊教育臨床研究第1巻 1996

- ⑨森田安徳・山口俊郎「学習障害児の読み書き検査作成の試み①」児童青年精神医学とその近接領域 34(5) 1993
- ⑩松田素子「発達障害への発達検査の利用」発達障害研究 第16巻第4号 1995
- ⑪中野良顕「学習障害児の指導プログラム」児童青年精神医学とその近接領域 34(5) 1993
- ⑫上野一彦「学習障害(LD)の理解をめぐる今日的課題」児童青年精神医学とその近接領域 34(5) 1993
- ⑬大塚玲「学習障害の定義に関する諸問題と今後の課題」特殊教育学研究 30(5) 1993

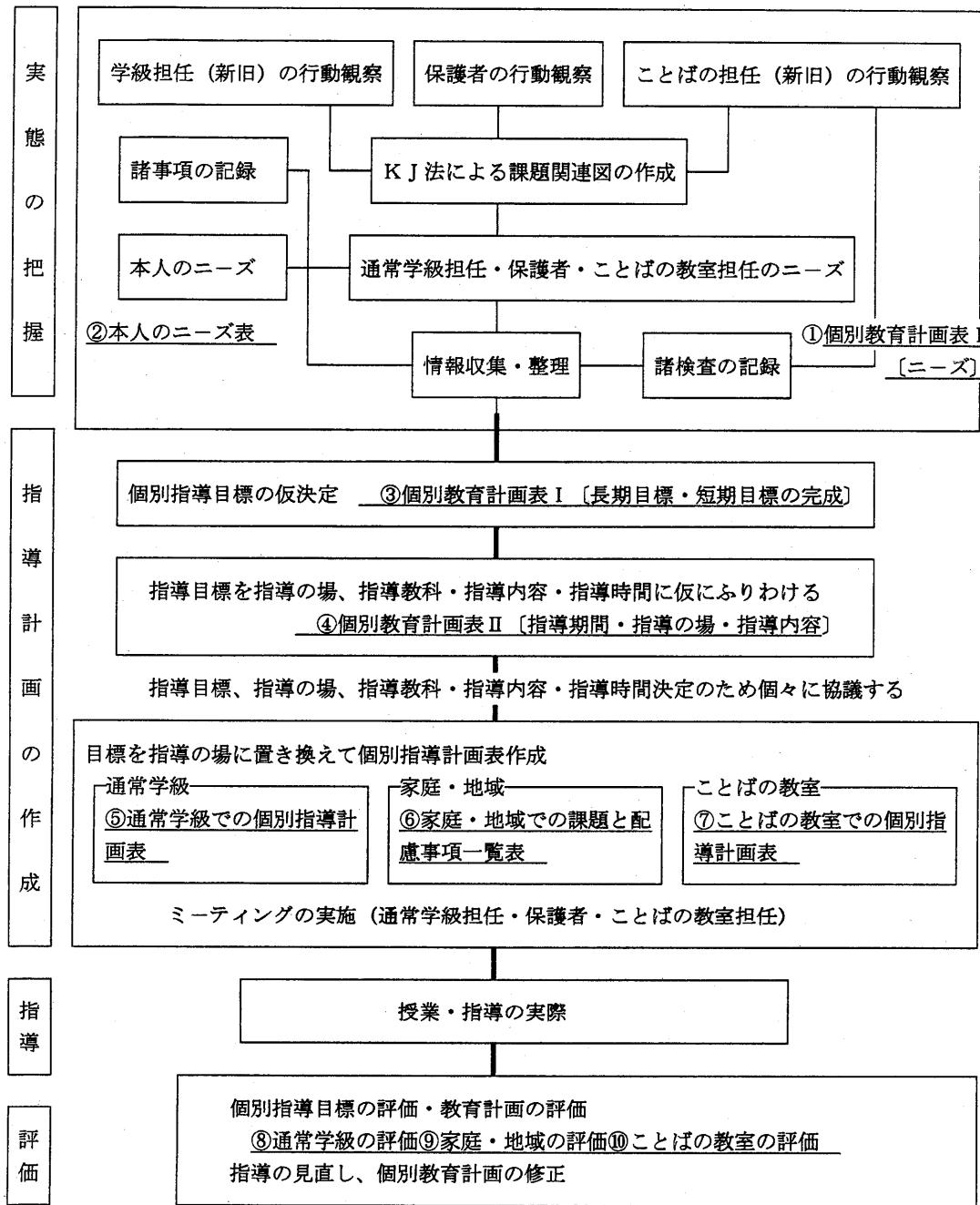


図1 個別教育計画作成の手順と方法

図2 A児の課題関連図

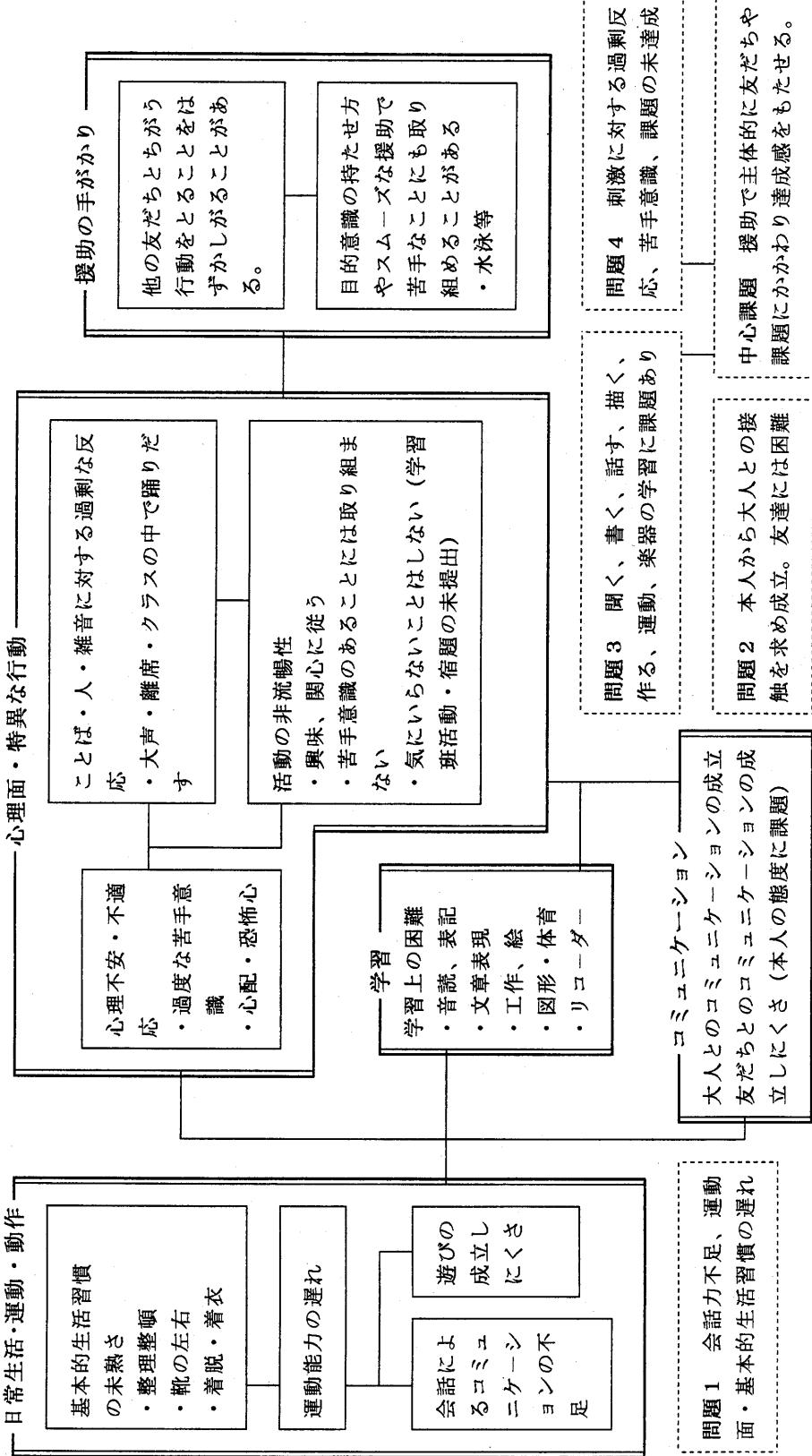


表1 個別教育計画表I（指導目標）

1996.11 水木記

保護者のニーズ	学級担任のニーズ	ことばの教室のニーズ	ことばの教室のニーズ	长期目標	短期目標
日常生活・動作	・身だしなみを整える。	・服装を整えることができるようになります。	・身づくろいに気を配ることができる。	・身だしなみや體の左右に気が配ることができる。	・シャツをズボンからでないよう部分的援助で着る。・シャツをズボンからでないよう口頭での指示で着る。
心理	・箸を上手に持ち、こどもさないように食べる。・靴の左右を聞こえないと感じられる。・靴の左右を間違えないと感じられる。・シャツをはみださないで、きちんと着る。	・靴を削り、削つてある鉛筆で字を書くようになれる。	・靴を削り、削つてある鉛筆で字を書くようになれる。	・靴を削り、削つてある鉛筆で字を書くようになれる。	・靴を削り、削つてある鉛筆で字を書くようになれる。
行動	・場に合う声やしゃべり方に気をとどめられる。(電話・道路で) (食後の大声)	・身につけた話しか方を身にこなす。落ちついた方ができるようになる。	・大きさや態度をよくして活動できるようになる。	・大きさや態度をよくして活動できるようになる。	・場所や人數に応じた音量に援助で気をつけられる。・場所や状況や相手の音量を考へながら話す。
学習	・図工・国画の苦手意識がある人にに対する接し方、話しかができる。	・集中して取り組む。・信頼や提出物を毎回きちんと提出する。	・集中して取り組む。・信頼や提出物を毎回きちんと提出する。	・集中して取り組む。・信頼や提出物を毎回きちんと提出する。	・周囲の状況を把握し、離席、大声での独り言をなめらかにする。・課題に対する目的意識と見通しをもち、集中して取り組む。
コミュニケーション	・文字が小さめに、丁寧に書ける。(マスに納まる)	・手先を使つた細かい作業ができるようになる。	・手先を使つた細かい作業ができるようになる。	・手先を使つた細かい作業ができるようになる。	・手先を使つた細かい作業ができるようになる。
コミュニケーション	・学校内外や学校外でも行き来できる友だちを作成する。	・自ら友だちとの名前を覚えることができる。	・自ら友だちと一緒に遊ぶことができる。	・自ら友だちと一緒に遊ぶことができる。	・先生や特定の友だちと正面から目を見て、教師の援助で自分の伝えたいことを伝えることができる。

表2 通常学級での個別指導計画表（指導内容は別紙指導計画による）

時間・教科	観点	8年／1	2	3	9年／4	5	6	7	9	10	11	12		
生 活	始業前	・靴・整理 ・身だしなみ ・挨拶・会話 ・係活動	・靴・引出しロッカーの整理 教師の援助 教師からとの会話 ・教師からの話しかけと友との会話を介へ ・〇〇係 (ノートを見て名簿にチェック)	・靴 (左右) *引出しロッカーの整理 教師の援助 ・口頭での指示で修正する。 ・教師との会話・教師が友達と一緒に援助する。 ・〇〇係 (友との会話を見て各簿にチェック)	・靴 (左右) *引出しの片付けを個別指導する ・口頭での指示で修正する。 ・教師との会話・教師が友達と一緒に援助する。 ・〇〇係 (友との会話を見て各簿にチェック)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自己チェック (カード) ・教師が友達と一緒に会話を部分的に援助する。 ・係を自分で選択し、友達と協力してする。(部分的援助) ・係を自分で選択する。 ・先生や友達の称赞を貰う責任を負う。 ・友達の援助で遊ぶ。教師が監察・学級遊びの日の選択	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自己チェック (カード) ・教師が友達と一緒に会話を部分的に援助する。 ・係を自分で選択する。 ・先生や友達の称赞を貰う責任を負う。 ・友達の援助で遊ぶ。教師が監察・学級遊びの日の選択	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自己チェック (カード) ・教師が友達と一緒に会話を部分的に援助する。 ・係を自分で選択する。 ・先生や友達の称赞を貰う責任を負う。 ・友達の援助で遊ぶ。教師が監察・学級遊びの日の選択	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自己チェック (カード)				
活 动	行間給食休み掃除	・靴・整理 ・身だしなみ ・会話 ・係活動 ・遊び ・やりとり	・靴 (左右) *プリントの角折り方の援助 ・自分で確認 ・教師からの話しかけと友との会話を監視に介へ ・〇〇係 (ノートを見て名簿にチェック)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを個別指導する。 ・口頭での指示で修正する。 ・教師との会話・教師が友達と一緒に援助する。 ・〇〇係 (友との会話を見て各簿にチェック)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを個別指導する。 ・口頭での指示で修正する。 ・教師との会話・教師が友達と一緒に援助する。 ・〇〇係 (友との会話を見て各簿にチェック)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)	・靴 (左右) の確認・引き出しの片付けを自分で確認する。 ・自分から確認 (カード)		
学 校 時	国語	・書く・表記 ・作文 ・話す ・音読	・靴・接拶 ・身だしなみ ・教師の声かけ、自分で確認 ・教師の声かけ、自分で確認	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	→ ○得意な計算を 黒板へ書かせることで抵抗をなくす。 → ○得意な計算を 黒板へ書かせることで抵抗を感じなくなる。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	→ ○得意な計算を 黒板へ書かせることで抵抗を感じなくなる。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。	・靴 (左右) の確認 (自分で確認) ・〇ノートやプリントの工夫 (マス目を少し小さく) 〇歌わん人を意識して丁寧に文字を書きよよう援助する。 ・初発の感想等援助で思いを表現することができる。 ・漢字は漢字カードを使用し正確に覚える。
算 数	・图形・配慮事項	・図形	・作文 ・話す ・音読	・個別指導 (机頭指導) *黒板へ書く。 ○計算ができるという得意面を生かす。	・個別指導 (机頭指導) *黒板へ書く。 ○計算ができるという得意面を生かす。	・新聞作り	・個別指導 (机頭指導) *黒板へ書く。 ○計算ができるという得意面を生かす。	・新聞作り	・個別指導 (机頭指導) *黒板へ書く。 ○計算ができるという得意面を生かす。	・新聞作り	・個別指導 (机頭指導) *黒板へ書く。 ○計算ができるという得意面を生かす。	・新聞作り		
社会科道徳	・班学習場面 ・話話し合い ・発表 ・新聞作り	・新聞作り	・本尼の願いや思いをもつて目標を伝え る。自分の考えを発表できることで活動を増やす ・新聞作りをして取り組む。	・教師や友達の援助で班学習への継続した参加ができる ・教師が本尼の思いを友達に伝えると共に友達の思いが 聞き取れるよう援助。 ・新聞作りで取り組む。	・教師や友達の援助で班学習への継続した参加ができる ・教師が本尼の思いを友達に伝えると共に友達の思いが 聞き取れるよう援助。 ・新聞作りで取り組む。	・新聞作り	・教師や友達の援助で班学習への継続した参加ができる ・教師が本尼の思いを友達に伝えると共に友達の思いが 聞き取れるよう援助。 ・新聞作りで取り組む。	・新聞作り	・教師や友達の援助で班学習への継続した参加ができる ・教師が本尼の思いを友達に伝えると共に友達の思いが 聞き取れるよう援助。 ・新聞作りで取り組む。	・新聞作り	・教師や友達の援助で班学習への継続した参加ができる ・教師が本尼の思いを友達に伝えると共に友達の思いが 聞き取れるよう援助。 ・新聞作りで取り組む。	・新聞作り		
音 楽	・歌唱 ・リコーダー曲演奏 ・グルーブ演奏	・歌唱 ・リコーダー曲演奏 ・グルーブ演奏	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	・歌詞では歌詞を相手につける。机頭指導 ・リコーダーの個別指導で簡単な曲が吹けるように指導。 ・人前で歌う歌うことの抵抗を減らすように援助	
図 工	・関心・意欲 ・態度 ・工作 ・絵画	・関心・意欲 ・態度 ・運動の技能 ・走る ・運動の技能 ・器械、走る	・個別の援助 (一緒に考え、一緒に作る) で題材への抵抗を減らす。称赞 ・立体工作、静物画個別・友達の目を気にしないよううに、よい所発表会を実施する。	・個別の援助 (教師と相談しつつ、なるべく自分で作る) ことができる。()友達よりの称赞 ・よい所発表会で、自分の作品のよさに気づくことができる。	・個別の援助 (教師と相談しつつ、なるべく自分で作る) ことができる。()友達よりの称赞 ・よい所発表会で、自分の作品のよさに気づくことができる。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。	・苦手とする種目に援助で少しはずつ意欲的に取り組む。		
体 育	・関心・意欲 ・態度 ・運動の技能 ・器械、走る	・「上手、速いよりも努力した方が大事である」とことを祈る。 ・運動の技能を実施する。	・「上手、速いよりも努力した方が大事である」とことを祈る。 ・運動の技能を実施する。	・補助につき援助・上達ぶり、努力を紹介、称赞。意欲化 化。・友達からの称赞を喜ぶ。	・「上手、速いよりも努力した方が大事である」とことを祈る。 ・運動の技能を実施する。	・補助につき援助・上達ぶり、努力を紹介、称赞。意欲化 化。・友達からの称赞を喜ぶ。	・〇〇係をすることで友達とふれあい、名前を覚える。・友達をさん、君付けで呼ぶことができる。	・〇〇係をすることで友達とふれあい、名前を覚える。・友達をさん、君付けで呼ぶことができる。	・〇〇係をすることで友達とふれあい、名前を覚える。・友達をさん、君付けで呼ぶことができる。	・〇〇係をすることで友達とふれあい、名前を覚える。・友達をさん、君付けで呼ぶことができる。	・〇〇係をすることで友達とふれあい、名前を覚える。・友達をさん、君付けで呼ぶことができる。	・〇〇係をすることで友達とふれあい、名前を覚える。・友達をさん、君付けで呼ぶことができる。		
特 活	・学級会活動 ・児童クラブ ・クラブ活動 ・学級指導	・学級指導 ・児童会活動 ・クラブ活動 ・学級指導	・〇〇係をすることで友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・〇〇係をすることで友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・〇〇係をすることで友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。	・係を自分で選択し、友達と一緒に活動する。 ・友達と一緒に活動する。		

表3 家庭・地域での課題と配慮事項一覧表

1996.12 母期記

表4 ことばの教室での個別指導計画表